

チャンスを頂いて



本郷千鶴

神戸大学自然科学系先端融合研究環
[657-8501] 神戸市灘区六甲台町1-1
助教, 博士(工学).
専門は高分子構造・物性, 生体高分子.
chizuh@crystal.kobe-u.ac.jp
www2.kobe-u.ac.jp/~tnishino/cx4.html

光栄にも「仕事と私事」欄の執筆の依頼を頂いたものの、仕事と私事の線引きやバランスがあまり良くない私にとって皆様に何をお伝えできるのか、なかなか思いがまとまらず、これまでに掲載された数多くのメッセージを読ませて頂きました。改めて読み返してみると、皆様のメッセージにとっても勇気づけられ元気を頂きました。これまでの研究生活を振り返りながら、私にとっての「仕事と私事」を本欄の趣旨である男女共同参画の視点からご紹介させて頂きたいと思います。

私は東京農工大学で修士を修了した後に東京医薬専門学校にて非常勤講師を務めながら、大学でも研究補助員として1年間、研究に携わらせて頂きました。東京医薬専門学校では女性教員が多く、博士号を取得している女性講師の方のサブとして実習を担当させて頂きました。研究や教えることが好きなので、知識や経験をさらに深めたいという思いが強くなり、博士への進学を決意し、再び東京農工大学に戻りました。その後、大阪大学、東京大学にて特任研究員として研究させて頂いた後に、神戸大学自然科学系先端融合研究環の助教に採用して頂き、現在に至っております。関東と関西を行ったり来たりしながら、これまでに六つの研究室に所属させて頂き、工学部、理学部、農学部と分野も横断して研究を続けてまいりました。これまでの数多くの出会いが私にとって本当に財産になっております。

現在所属しております神戸大学には男女共同参画推進室があり「女性研究者支援モデル育成」(平成19～21年度)に引き続き「女性研究者養成システム改革加速」(平成22～26年度)(文部科学省科学技術人材育成費補助金)事業に「レポリューション!女性教員養成神戸スタイル」が採択され、5年間で21名の女性教員が採用されました。私は平成24年度にこの事業の新規養成女性教員として採用して頂き、工学研究科応用化学専攻の西野孝教授の下で研究・教育活動を行わせて頂いております。アカデミックポストを得ることが難しい昨今、このような大きなチャンスを頂き、何とかここまで続けてこられたのは周りの先生方のご指導やご支援のお

かげだと強く感じております。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私の場合、所属した研究室に女性が私だけということではなく、ほかに比べて女性の割合が多い研究室に所属していたように思います。学生の頃から比べても女性研究者、教員の数が増えている、子育てしながら研究活動を続けている方が増えているのを実感しています。多くの大学や学会で男女共同参画に関する活動も多くなっており、制度や施設も確実に充実してきているおかげだと思えます。

私自身、なぜ理系に進み、そして今に至るのかをふと思い起こしてみると子供の頃まで遡るように思います。お隣の祖父母の庭で従兄に遊んでもらいながら花や虫と戯れて過ごしていました(妹たちは虫は苦手でしたが)。小学校の入学お祝いにもらった図鑑で目についたものを調べるのが楽しくなり、自然と理科の授業が面白く感じていたのを覚えております。小学校の担任の先生からの勧めだったか、高学年の頃に地域の科学センターに通い、理科の実験、解剖など体験させて頂きました。幼少期から小学生の頃の実体験が漠然とした好みというか潜在的な意識や深層心理に影響するというのが、私にも当てはまっているのかなと思うと、理科離れを食いとめるには子供の頃に自然と触れ合うことや楽しい理科教室を体験させてあげられる環境づくりは大切だと思っております。この科学センター(今は科学館)も老朽化のため平成28年3月で閉館とのことで寂しく感じております。妹たちが子育てをスタートしたところですが、お砂場遊びや公園での遊びが最近では減っているようで、虫はもってのほか、花にもあまり興味が無いようで少し残念です。甥っ子たちを含め周りのちびっこたちにも理科の面白さを伝えてあげたいと思っています。

頂いたチャンスを活かし、私なりに自然科学系の女性研究者・教育者として一つのロールモデルとなれるよう、さらなる努力を続け、恩返しをしていきたいと考えております。